



絶唱

令和7年12月25日

学校だより

第10号

ちっぽけな自分。でも、かけがえのない自分。

校長 長尾 美保子

皆さん、今日で2学期が終わります。皆さんにとって、どのような2学期になったでしょうか。

2学期は約4か月。毎日の授業は日に日にレベルが上がり、たくさんの行事があり、その中で、知識を身に付け、考える力や判断力、行動力を磨いてきました。1日テスト等の力試しを通じて今の自分の力を分析し、3年生は進路希望の決定につなげました。終業式は、そんな4か月間を皆で振り返る機会だと思います。次に向けて、再スタートを切るために、これまでを振り返ってみましょう。

先日皆さんを取り組んだ「学習などについてのアンケート」は、自分を振り返る機会の一つでした。全校生徒のアンケート結果で、強く「そう思う」と答えたことにしづり、一部紹介します。

「人の役に立つ人間になりたいと思う」(77.1%)

「人の役に立て、うれしいと感じることがある」
(75.5%)

3分の2以上の方がこう感じています。皆さんのさりげない気遣いや、色々な行事でも見られた相手を思いやる行動は、このような考え方からきているのですね。こんな結果もあります。

「自分は必要とされている」(34.1%)

「自分にはよいところがある」(45.4%)

強く「自分は必要とされている!」「よいところがある!」と言い切るのは難しいかもしれません、言い方を変えると、「必要とされていない」「よいところがない」と感じている人がいるとも言えるかもしれません。皆さん、どう思いますか?なぜこのような結果が表れるのでしょうか。理由を考えてみましょう。

自分の存在感や自分の成長や良さを感じる機会が少ない、または何か手ごたえを感じるところまで取り組んでいないのかもしれません。一人一人が自分の力を生かす機会自体が少ないのかもしれないし、何か行動したときに「ありがとう」などの言葉が少ないのかもしれません。アンケートでは、こんな結果もありました。

「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」
(45.8%)

「わからないことをそのままにせず、分かるまで努力するようになっている」(48.6%)

「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じことがある」(47.8%)

これらは、消極的な返答が多めの項目です。

皆さん。「自分の存在や行動がみんなのためにもなっていると感じたい」、「自分の成長の手応えを感じたい」、そう思いませんか。学校の主役である皆さん、「こうしたい」「こうなりたい」と望み、少しでも行動を起こせば、毎日は必ず変化していきます。

私が大切にしている言葉があります。それは、『ちっぽけな自分。でも、かけがえのない自分。』です。私がこれまで多くの生徒や先生方と関わり、学んだこと、大切にしようとしたことを表した言葉です。

『ちっぽけな自分』。「自分がこんなことをやったって、大した役には立たない」、「自分はこうだからしょうがない」、「自分くらいいいや」。そう思うことはたくさんあるかもしれません。でも、『かけがえのない自分』です。人生の中で、心も体も、とても大きく変化していく年代を生きている皆さん。段々と自分の世界が広がり、深まっていく中で、不安な気持ちや苛立ちもあるでしょう。簡単にはうまくいかないことも、たくさんあると思います。ですが『かけがえのない自分』です。「こんな自分は嫌だ」と思うこともあるけれど、逆に「こんな自分になりたい」もあるのです。

『かけがえのない自分』を生かし、もっと成長させる。自分が自分を「いいな」と思えるようにする。そのためにはどうしたらよいのでしょうか。

毎日あっという間に時間が過ぎ、また次の日がやってくる。深く考えることもなく、いつもと同じように1日を過ごす。ある時、ふと「このままではダメだな」「何か全然進んでいないな」「もう少し何とかならないかな」。そう感じることはありますか?私も、もちろんあります。そこで、取り組んでいることを紹介します。

それは、1日の終わりに、落ち着いた場所で静かに、今日取り組んだこと、がんばったこと、できしたこと、できな

かったこと、考えたこと、うれしかったこと、残念だったこと等を振り返る時間づくりです。

私は、すぐ忘れてしまうタイプで、なるべく気づいたらメモをするようにしています。メモには、取り組んだこと、かかった時間、考えたことなどを書きます。1人でそのメモを見直します。1日の手応えも感じるし、もったいない時間があったことにも気付きます。そして、「これからやることリスト」を作り、いつまでに取り組むか、取り組む優先順位を考えます。メモは捨てず、ファイルして、後から見直すようにしています。すると「この時、こんなことを考えたんだ！」と、あとになって自分の書いた内容に驚くこともあります。繰り返し続けていくと、自分の歩みが残り、『ちっぽけな自分』なりに頑張っていることが見ええてきます。自分の悪い習慣にも気付きます。

これは、私が受験生の時に考え、やり始めたことです。受験生の冬は、手帳にとにかく「何時から何時まで何をやった」をメモしました。受験当日、その手帳を持ってい

き、不安になつたらそれを見ました。

さあ、どうでしょうか。自分を振り返り、手ごたえを感じたり、少しでも行動する。そうやって1日1日を積み重ね、「自分で」人生を積み重ねていく。これが本当に大事な時の底力につながると考えます。

2025年はもう少し終わりを迎ますが、1日1日過ごした足どりは残っています。自分の歩みを振り返り、2026年を思い描いてみましょう。

1日、1週間、1か月、半年、1年。その先の3年後、10年後…の自分を考える。2026年は、1日が終わったらその日を振り返り、「よし、また明日！」と思う。

みんなでそんな時間の使い方に取組み、この学校で『ちっぽけだけど、かけがえのない自分』を育てていけたらと思います。

では、皆さんにとって、実りの多い冬休みとなることを願っています。そして、よい新年を迎え、1月15日に、笑顔で会いましょう。

「二学期の振り返りと三学期に向けて」

2年1組 生徒

僕が二学期に一番印象に残っていることは、福井野祭です。2年1組では「福井野万博」をテーマに展示を行いました。マスコットキャラクターの「フクフク」や、SDGsに関連する道具などをみんなで協力して作り上げました。僕はエコガチャという道具を作る担当でした。中の構造を作ることが大変でしたが、本物のガチャガチャのように作ることができて、作り上げたときはとても達成感がありました。その他の人たちもクオリティの高いものを作っていてすごかったです。クラス全員で力を合わせて完成させた万博は大成功で終えることができました。

二学期に自分が成長したと感じたことは、計画的に行動できるようになったことです。テストに向けて、いつ、どの教科を勉強するのかがわかるように、自分なりに時間割を作成し、計画的に学習に取り組みました。その結果、点数が上がり、自信につながりました。

しかし、苦手な教科では思ったほど点数を伸ばすことができず、課題も残りました。

三学期は得意な教科も苦手な教科もバランスよく点数を伸ばせるように、得意な教科よりも、苦手な教科にかける復習の時間を増やすことを心がけ、計画的に勉強に取り組み、前期よりも良い成績を残していくたいです。

1月の行事予定

12月29日(月)～1月6日(火)	冬季休校日	23日(金)	委員会・局会
15日(木)	3学期始業式、道徳講演、完全下校	26日(月)	全協
19日(月)～30日(金)	スキー特別時間割	27日(火)	1日テスト範囲発表、完全下校
19日(月)	スキー2年全組①	29日(木)	完全下校、No部活Day
20日(火)	スキー1年全組①	30日(金)	完全下校